

令和6年8月(253)

秋山医院

藤岡市小林748-8

☎0274-22-8315

医院だより

八月 別名 葉月(はづき)・建西月(け

んゆうげつ)、仲秋(ちゆうしゅう)

葉月の名前は、「葉落ち月」ではないかと言われます。仲秋という名からもわかる通り葉月と称されていた旧暦時代には八月は秋たけなわの頃。木々の葉が色づきやがて散り始める時期であるところからこの名がついたといわれます。河出書房新社、鈴木光弘

「暮らしに生かす旧暦ノート」より一部引用)『奥儀抄』にも「木の葉のみぢて落つるゆゑに、葉落ち月をいふを誤れり」とする(講談社日本大歳時記)。「三つ、できた」「(南牧村)ひとぼし」



目次

- 1 八月の異称、八月の花、八月の言葉
- 2 八月の暦
- 3 お知らせ、当番医 健康テレフオン
- 4 日野原重明先生の言葉
大岡 信選集
- 4 けんこう(百七十六)
群馬県感染症発生動向調査より
- 6 院長のひとりごと(222)
(平家物語とコロナ)

『八月の花』向日葵(ひまわり)、朝顔(あきがお)、百日紅(さるすべり)、カンナ、白粉花(おしろいばな)、大待宵草(おおまつよいぐさ)、百日草(ひやくにちそう)、下野草(しもつけそう)、鷺草(さぎそう)、柳蘭(やなぎらん)、露草(つゆぐさ)、駒草(こまぐさ)、野甘草(のかんぞう)、子鬼百合(こおにゆり)、夕菅(ゆうすげ)、山百合(やまゆり)……中でも鷺草、駒草は「なるほど」と手を打ちたくなる命名です。

『八月の言葉』

わたしたちは知っています。すべて神から生まれたものは罪を犯しません。神からお生まれになった方

が、その人を守ってください、悪いものは手を触れることができません。(ヨハネの手紙一第五章 一八節)

信者は神につながれてその生命(いのち)をことごとく彼に求めるのに対して、世はこぞって悪者にあつて生活するのである。すなわちキリストとサタンとの間に介在して、信者は神に属(つ)き、世は悪魔に属(つ)くといふのである。しかしながら事實はその通りである。世はその科学と文学と哲学と芸術とをもつて、こぞって悪魔に属(つ)くのである。世の大体の方針は悪である。そのうちに多少の善がないではない。多少の善人がいないではない。しかしながら概して世は悪魔のものである。キリスト教は決して人類多数の信受する教えではない。信者は常に少数である。そして多数は常に悪魔の従属である。自分は世の多数の賛成を得たと言つて悦ぶ信者(?)は、自分で何を言っているかを知らないのである。

(内村鑑三「一日一生」七月二十七日)

「八月の暦」

- 一日 八朔、水の日
- 二日 鬼貫忌、青森ねぶた祭
- 三日 秋田竿灯
- 五日 山形花笠祭

六日 広島平和記念日、仙台七夕

七日 立秋 初めて秋の気配がほの見える

ころのこと。暑い盛りだが、これ以降は夏の名残の残暑といえます。

初候 涼風至る

涼しい風が初めて立つころ。その風を、秋の気配の始まりと見て。

(新暦ではおよそ八月七日～十一日ころ)

次候 寒蟬(ひぐらし)鳴く

カナカナ……とひぐらしが鳴くころ。

夕暮れに響く虫の声は、はかない夏の夢のよう。

(新暦ではおよそ八月十二日～十六日ころ)

末候 蒙霧升降す(のうむしようこうす)

深い霧がたちこめるころ。春は霞たち、秋は霧けぶる空模様。

(新暦では、およそ八月十七日～二十二日ころ)

初候 綿柎開く(わたのはなしべひらく)

綿の実を包む萼(がく)が開くころ。種を包む綿毛をほぐし、綿の糸を紡ぎます。

(新暦ではおよそ八月二十三日～二十七日ころ)

次候 天地始めて肅し(てんちはじめてきむし)

ようやく暑さが収まりはじめるころ。

夏の気が落ち着き、万物があらたまる時期とされます。

(新暦ではおよそ八月二十八日～九月一日ころ)

末候 禾乃登る(こくものみのる)

田に稲が実り、穂をたらすころ。

禾とは、稲や粟などの穀物のことをいいます。

(新暦ではおよそ九月二日～六日ころ)

二十三日 一遍上人忌

三十一日 二百十日

ヤマユリ



九日 長崎原爆の日

十一日 山の日

十五日 終戦記念日

二十二日 処暑 処暑とは、暑さが少し和らぐ

ころのこと。

お知らせ

一、マイナンバーカードでの受付ができません。カードは保険証の代わりになります。将来的には医療機関は他院での処方や特定検診結果もここから知ることができます。

まだマイナンバーカードがない方は、月の最初の受診時には、受付に保険証をご提示ください。

二、診療案内

七月から従来通り、午後の診療を再開しています。

『午前診療』はこれまで通り、

(月)から(金)、8時半から12時半まで、来院順で診察を致します。

『午後診療』は予約診療と予約の無い方も来院順で通常診察を受けられます。

予約は、電話でも可能です。

(1)月火水、金は、15時から18時

(2)午後の診療では1時間に2人の予約枠(1日6人まで)を設けました。時間

間に制限のある方はご利用ください。

(3)診察の順は、予約の方優先と致します。予約外の方は来院順です。

(4)予約の無い方の受診受付は5時半までといたします。

『診療内容』

- 一般外来診療
- 往診・在宅医療
- 骨粗鬆症の検査・治療
- ピロリ菌の検査と治療
- CT、MRI、PETの予約
- 胃カメラ・大腸カメラ
- 肺炎球菌・带状疱疹ワクチン
- 他のワクチン(新型コロナ、RSワクチン)

三、当番医八月十一日(日)

9時から18時まで

四、八月十二日から十五日は休診

ツユクサ



五、群馬県保険医協会二十四時間健康テレホン

電話〇二七―三三四―四九七〇

<http://www.raijn.com/kenko/>

月	歯の寿命
火	骨粗鬆症の予防
水	いびきがひどい
木	過換気症候群とは？
金	ストレスと生活習慣病
土日	HPV キャッチアップ接種は2025年3月末まで

「日野原重明先生の言葉」

「先生から見て『偉い人』とはどんな人でしょうか？」

偉い人とは、眼に見えないものをたくさん持っている人だと思います。そしてそのことで光り輝いている人。

僕たちは、お金や地位、名誉、車や宝石のような、手にしたときに、ある種の幸福感・満足感を与えてくれるものを求めて暮らしているものです。ただ、そういうものは、なくなるときには全部なくなってしまう。

残念ながら、僕たちはそういうものを追いかけて、生きていくものなのです。

目が見えることで、見えなくなってしまう尊いものがたくさんあります。実はそういう目に見えないものこそが、本当の意味で僕たちに幸福を与え人生を豊かにするものなのです。

讚美歌に「アメイジング・グレース」という有名な歌があり、みなさん、一度は聞いたことがあると思います。

その中の歌詞に、

「I once was lost but now am found, was blind but now I see」

一度は道を外れた私だが、今見出された。かつては見えなかったこの目、でも今ははっきりと見える。

という言葉があります。

この歌詞に描かれている人は目が見えなかったわけではないと思います。肉眼の目は見えていた、けれど見えなかった (blind: 盲目) と言っているのです。

目が見えることで、大切なことが見えなくなり、この与えてもらった命に感謝することなく、道を外れてしまう。太古の昔から、人間はそういう存在なのでしょう。

自分の与えられた命に感謝し、時間を人のために使える人、さらに言えば、時間はまさに「タイムイズマネー」です。得たお金をも、他者のために捧げることのできる人、僕はそのような人が本当に偉い人なのだと思います。

得たものではなく、与えられたものをどう使

うか。

その使い方によって、本当の偉さ、つまり人生の豊かさが決められるのだと思います。

日野原重明「生きていくあなたへ」

大岡 信著 『新折々のうた』八から

新しきもの買ひやれと夫(つま)の言ふ

子のジューパンは新品なんです

桜井千恵子

「風花の紋章(平一四)所収。この歌と並んで歌集にある歌、「子の告ぐる新米教師の悩みごと」一葉の若葉のごとし」によって、右の歌をめぐる事情もはつきりわかる。「CMに呼び止められつ『おかあさん女を捨ててゐませんかドキッ』男らの軽口を聞く『できるなら美人に臓器提供したし』。これは十年ほど前にたくさん紹介して好評だった『台湾万葉集』を思い出させる。日常生活の活写と諧謔性」と。

5 わが顔を忘れてすする心太(ところてん)

澤本三乗

『一樹』(平一五)所収。古くはテングサなどを指して心太(ところぶと)と書いた。食品として好まれ平安京にも心太店まであったらしい。このココロブトがココロティと表記され、これが変じてトコロテンになったというのが、江戸中期の儒学者荻生徂徠の説である。説そのものがトコロテンの様にゆらゆらしているが、ほかに決定的な説もないようだ。語の詮議はともあれ目の前であれば句のように「わが顔を忘れて」一心にふるふる。

ホウセンカ



けんこう (百七十六)

群馬県感染症発生動向調査より(25週)

(群馬県衛生環境研究所感染制御センター)

★手足口病の報告が継続しており、県内では警報が発令中です。

原因となるウイルスはアルコールが効きにくいので、手指は石けんと流水でよく洗うようにしましょう。

★新型コロナウイルス感染症の報告が増えています。周りに感染を広げないように、咳やくしゃみが出るときは、「マスクをつける」「鼻と口をティッシュペーパーで覆う」「袖や上着の内側で覆う」などの咳エチケットを心がけ、マスクをしていても顔は人からそむけるようにしましょう。

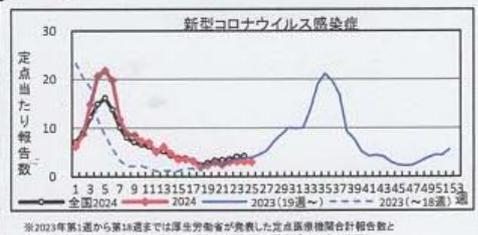
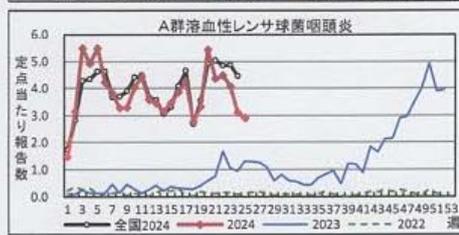
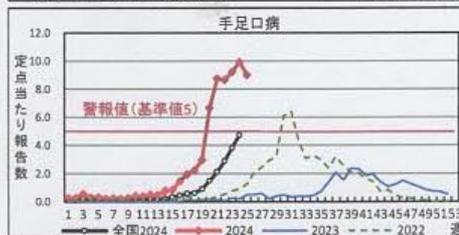
もし、手で覆って咳やくしゃみをした場合は手を洗いましょう。換気も感染症対策に有効です。

★腸管出血性大腸菌感染症の届け出が続いています。気温が高くなるこれからの季節は、特に注意が必要です。肉は中心まで十分に加熱し、生野菜は良く洗って食べましょう。こまめに石鹸と流水で手を洗いましょう。

■第25週の注目疾病

(定点当たり報告数)

疾病名	24週	25週	定点当たり報告数の多い地域等
手足口病	9.94	9.04	館林地域(20.00)、富岡地域(16.00)、太田地域(15.17)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.11	2.91	富岡地域(6.50)、伊勢崎地域(3.83)、太田地域(3.83)
新型コロナウイルス感染症	3.05	2.98	利根沼田地域(7.67)、渋川地域(6.33)



※2023年第1週から第18週までは厚生労働省が発表した定点医療機関合計報告数と定点当たり報告数(令和4年10月3日～令和5年7月7日の週次データ)から作成

院長のひとりごと(二二二)

「平家物語」と「コロナ」

◇COVID-19は1万5,000例超の増加で5万5,072例となり、昨年同週(5万4150例)を超えた。国立感染症研究所のCOVID-19月報(6月)によると、第22〜25週のゲノムサーベイランスによる系統別検出状況では、XPP.3系統株が75.0%を占め国内で主流となっているという。XPP.3系統株は、オミクロン「21C」株と比較して感染性は低いものの、高い伝播力と免疫逃避能力を有する*。

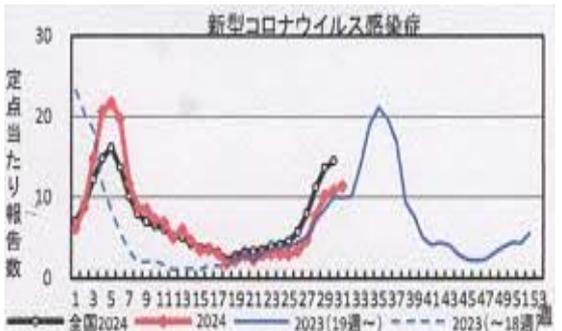
猛暑の中マスクを外す機会も増加する一方で、流行拡大が懸念される。**Lancet Infect Dis* 2024;S1473-

30997(24)00415-8

◆令和5年5月8日新型コロナウイルスの感染症5類化で社会は落ち着きましたが、またじわじわと感染者が増加しています。現在の株はオミクロン株より感染しやすいが症状が激しくないとわれていますが、高齢者では重症化する人の数が増すことが予想されています。

予防が一番重要ですが、一回緩んだ気持ちを再び緊張させることはむずかしいことだな、いろいろな記憶を思い出して感じています。

◇そこで思いあつたのは、日本史の中の大事件、源氏と平氏の「一之谷の戦い」の「コマでした。



今でも思い出します。それは、中学生の時に図書館から借りて読んだ「保元物語」「平治物語」との出会いから、骨肉相食(こつにくあい)はむおぞましい人間の姿に衝撃を受けたことでした。続く「平家物語」の口調の良さに魅かれ大声で音読し、吉川英治書「新平家物語」の文章の美しさに魅了され氏の多くの作品を読みました。

さて、平氏の年譜を見えます、十八年の歴史です。

◆一一六七年 平清盛太政大臣(大雑把に言うと

最高権力者で皇太子に匹敵)

一一七七年 鹿ヶ谷(ししがやつ)の平家

打倒の陰謀(後白河法皇の関与)

一一七九年 清盛、後白河法皇を幽閉

一一八〇年四月 以仁王、平家追討の命令

五月 以仁王敗死

六月 清盛、福原(兵庫県)遷都

八月 源頼朝挙兵

十一月 清盛京都に戻る

一一八一年 清盛没(六四歳)

一一八三年 平家都落ち、木曾義仲入京

一一八四年(一月)源頼朝、義経、義仲を討つ

(二月)一ノ谷の戦い

- 一一八五年(二月) 屋島の戦い
- (三月) 壇ノ浦の戦い(平氏滅亡)
- 一一八九九年(九月) 奥州藤原氏滅亡、義経死亡
- 一一九二年(七月) 源頼朝、征夷大将軍Ⅱ

武人の最高栄誉職となる

に優れ、都落ちのとき、選者の藤原俊成を訪れて歌集を頼んだ話は有名)が守った。
北は断崖、西から鉢伏(はちぶせ)、鉄拐(てっかい)、高取(鷹鳥)(たかとり)、北の中央に鶴越(ひよどりこえ)が連なる。



◇木曾義仲に敗れた平家は西国で力を盛り

返し、追討で下ってきた範頼軍を破り、かつて清盛がわずか五か月間だけ遷都した福原まで上ってきてここに陣を構えた。

東は生田川というところで平 知盛(清盛の四男)・重衡(五男、東大寺大仏や興福寺を焼亡じが陣を構えた)。

西は須磨・明石から三ノ谷、二ノ谷、一ノ谷と海岸近くまで山が迫る(磯山)狭隘な道でここに薩摩守忠度(清盛の異母弟で和歌

南は平家の船が浮かぶ瀬戸内海。兵力は平

氏が5-7万、源氏が数万騎とされている。(資料によつて数は異なっている。平家物語、吾妻鏡、玉葉(九条兼實の日記)、その他)源氏の活躍を強調した場合には、一〜二千の兵で10倍以上の平家を破ったという記録もある。戦闘はわずか2から4時間だったといわれている。

◆あまりにもろかった平氏に次のような解釈もされている。

対峙しながらも、二月四日は清盛の命日で戦陣にありながら法要が行われた。攻めるには好機だった源氏の行動に疑問は残るが……。それ以上のことがあった。

二月五日に平家の陣に後白河法皇の使いという人物が書状を持って訪ねてきた。それによると……吉川英治著『新平家物語』、からのあらまし

後白河の法皇(きみ)におかれては、先には木曾義仲の乱暴狼藉を見てきて、今また、平家と源氏が大戦に及ぼうとしているのを見て、何とか和解の道はないかと悩んでいる様子はひとつ方ではありません。そこで源氏に対し、固くその旨を理解せよと言ひ渡されたのです。しかしこのような和平の願ひも平家一門の賛同がなければ無意味です。それを伺いたくやつてきました。もし平家にも和睦の気持ちがあるならば、早々に帰って法皇に奏上し、すぐに正式の院宣を賜りましょう。院宣の使いがくるのは二月八日中に来ることになるでしょう。したがって、八日の院宣の前に東国武者に兵馬を動かすことはさせないことは申すまでもないが、平家の方々もよくよくお考えになつて、決定してください』と。

このことは平家の陣中にすぐに伝わって、早や緊張がとけて酒を飲んだりする人も出てきた。しかし、

院宣が来るといわれた八日待つことなく、源氏の兵馬は北方の山岳地帯、さらに西に回って一ノ谷に迫り、二月七日の早朝一ノ谷と東の生田口に攻め込んできた。まずは建物に火をかけ混乱させ、平家の名だたる多くの武将が討たれてしまった。

中でも自分の息子と同じ年齢の平家の公達、敦盛を目の前にして、迷いながらも首をとった熊谷次郎直実の話は涙を誘うが、その時の心情はさておき、直実はのちに法然上人に師事し、親鸞との交流があり、蓮生坊として敦盛の供養を生涯果たしたといわれている。

外に歌人の薩摩守忠度、重衡の最後も場面が浮かぶような作者の筆の力がある。

まさか、討った直実、討たれた敦盛の名が花の名前として残るとは、思いもよらない事であっただろう。



熊谷草

敦盛草



この2枚の写真は「植物園へようこそ」から借用しました。

あとがき

コロナの話から源平盛衰の話になるとは思わなかったが、源平の戦いの中でも一ノ谷の戦いはいろいろなことを考えさせられることがおおく、記憶に残っていたことを整理してみた。正史として残っていることも当然作者の思いが影響していることは否めないが、同じ現代の戦記も見方を変えてみる必要があることはいつの時代でも同じであろう。